

# C-93 被服の着装効果を目的とした顔の形態的因子の研究(第1報)

名古屋女子大家政 ○ 橋原きみえ 青藤一枝 水口綾子 池田恵子

目的 人の個性と被服の色・柄・デザインとの関係において、着装効果が異なることは概念的に知られている。本研究では個性の要素の一つである顔を取り上げ、肩・目・鼻・口等の形態的因子と被服の着装効果との関係を理論的に明らかにすることを目的とする。

方法 本学・短期大学生222名を被験者として、昭和49年～52年に撮影した顔写真を女大に引き伸ばし、肩・目・鼻・口の各長径・幅径・角度を間接計測した。その資料を用いて標準偏差を求め、±3σにより5段階に類型化し、基礎的な資料を作成した。

結果 1. 肩・目・鼻の長径・幅径・角度の平均値について(肩・目は右)① 肩長(投影長)は4.30cm, 肩幅は0.63cmであり, 肩頭を基点とする肩の角度は0.80°であった。② 眼裂長は3.10cm, 眼開大径は0.98cmであり, 眼頭を基点とする目の角度は14.17°であった。③ 鼻高は6.35cmであり, 鼻幅は3.80cmであった。④ 口裂長は4.58cmであり, 口厚径は1.84cmであった。

2. 肩・目の左右差について ① 肩長では右大が51.4%, 左大が36.9%, 左右同径は11.7%であり, また眼裂長では右大が40.1%, 左大が41.4%, 左右同径は18.5%であった。なお肩長・眼裂長のほかに肩幅・眼開大径にも左右差が認められたが, その差はわずかであった。

3. 今回は肩・目の類型化を試みることにし, 両者の各左右の相関係数を求めたところいずれも高度に有意であった。そこで肩・目は右を用いることにし, 各長径・幅径の組み合わせにより分類をした。なお単なる長径・幅径のみでなく, 上り肩・下り肩など角度によるもの, また目は一重目・二重目など, 視覚を併用した類型化も試みた。